



ちよっとためになる お金 の話

こんにちは。子育て世代専門のFP（ファイナンシャルプランナー）角山です。前回までは、iDeCoとNISAと変額保険との違いをお伝えしました。分がりやすく覧にしてみました。

	iDeCo	NISA	変額保険
利用できる人	20歳以上65歳未満	18歳以上～年齢制限なし	0歳～70歳（商品による）
投資対象商品	定期預金、保険、投資信託	【つみたて投資枠】金融庁が定めた基準を満たす投資信託・ETFなど 【成長投資枠】上場株式・ETF・REIT・投資信託など	特別勘定の投資信託
税制優遇	●掛金が全額所得控除（所得税・住民税軽減）（上限あり） ●受け取る時に一時金で受け取る場合は「退職所得控除」分額で受け取る場合は「公的年金控除」。両方を組み合わせた場合は「退職所得控除」と「公的年金控除」の両方が適用されます ●運用益は非課税	●掛金の控除はなし ●運用益は非課税	●掛金は生命保険控除の対象（最大で所得控除4万円・住民税2.8万円の所得控除が受けられます） ●運用益は非課税 ●解約時の優遇（50万円まで無税）
引き出し時期	原則60歳までは引き出し不可 60歳～75歳までに引き出す	いつでも引き出し可	いつでも引き出し可だが、10年以内の解約は解約控除がかかる可能性あり（保険会社による）
口座管理手数料	2,829円	無料	無料
口座管理料	年間2,082円～約7,000円程度（金融機関による）	無料	運用関係費用（商品による）

これが比較になります。iDeCo、NISA、変額保険はどのような時に使い分けをしたら良いの？と聞かれます。

まず、iDeCoです。

最大の特徴は、3つもの税制優遇があるところが大きいです（掛金が全額所得控除、運用益が非課税、受け取る時に控除がある）。ただ、60歳まで原則引き出せません。これをデメリットと考える方もいますが、逆に老後資金の準備として考えるなら、途中で引き出しが出来ないのはメリットとして考えることができます。

ただ、投資対象商品で元本確保型を選んだ時にも要注意です。元本確保型の代表は銀行の定期預金が挙げられます。元本が確保されているので選択される方もいますが、iDeCoの場合、口座管理料がかかり運用益以上にかかってしまうこともあります。

次にNISAです。

iDeCoのように掛金の税制優遇はありませんが、いつでも引き出し可能です。また、iDeCoや変額保険と違い、運用期間は18歳以上でしたら、年齢制限はありません。老後の資金準備だけでなく、幅広くお金のかかるイベントに対応できると思います。

最後に変額保険です。

変額保険は死亡保障などを持ちながら資産形成ができるのがメリットかと思えます。また、保険料は生命保険料控除がありますが、上限があります。

小さいお子様がいて保障も確保しつつ、資産形成を考える人には良いかもしれませんが、純粋に資産形成として考えると保障が付いている分、運用コストが割高になります。

以上になります。まずはメリット、デメリットを理解し、すべて併用することは可能ですが、皆様にとって何が最適かを確認して実行してください。

最後にiDeCo、NISA、変額保険の全てに共通した注意点があります。全て元本保証はないという事です。この辺りは大切なので、次号お話をします。

最後までお読み頂きましてありがとうございます。また、良かったら、来月も見てください。

HUG HUG 特典 無料相談は要予約
角山先生と1対1で相談（相談時間：1時間 無料）
&
家計診断（ライフプラン）作成プレゼント

無料相談をご希望の方は、メールにて受け付けています。
①氏名 ②メールアドレス ③電話番号 ④ご希望の日時を明記し、[info@hughug-town.com]までお送りください。



角山 大尚

約22年前より独立し、ファイナンシャルプランナーとしてセミナーや個別相談会を全国各地で開催。個別で勉強して身につけた知識をどう実生活に活かしていくのかをアドバイスしている。